

編輯後記

▽十二月八日、宣戰の大詔を奉戴して米英聯軍に驅起して早くも一ヶ年が過ぎた。緒戦に於て幸先のよい大戦果を挙げたことは、當然長期戦を戦ふべく覺悟せねばならない吾々にどれだけ心の餘悠を與へられたことであらう、然し敵の反撃抗戦は執拗に執拗を極めつゝある。感激の開戦一周年を迎へて、更に不撓不屈の戦ふ決意を固めねばならない。

▽文樂の一行が東上、一日初日で新橋演舞場に開演した。七月の大當りを今回も期待して、初めから廿七日間興行、狂言五回替りを豫定してゐる。成功を祈る。

▽天理圖書館に秘藏される加島屋版丸本の版本に關する發表は丸本研究家の待望久きものであつたが、今回同人祐田善雄氏が、その研究の一餉として「正本の包紙」について有益なる論説を寄せられた、御熟讀を乞ふ。

乞ふ。

▽後藤敏雄氏の「ル・シッドとオーラス」は前號所載、本城格氏の「コルネイユの理想」と共に京大に於けるコルネイユ研究會に發表された優秀發表の一つである。

▽「文樂藝術」主幹吉田文哉氏が逝去された同誌の編輯に努力される傍、日本同協會の事務を處理して、創立間もない同協會の發展の爲めに盡瘁するところあつたが、哀惜に堪えない。

▽本誌は昨年七月同人改組以來、内容の改善充實に力を致して來たが、本年に入つて以來、先輩諸先生の御寄稿御後援を忝うして頼に、内容、外觀の整備を遂げることを得て好評を賜つてゐる。昭和十七年最終號の編輯を終るに當り、改めて各方面の御厚情に對して深く感謝の意を表したい。四百十六號は新年號である、筆硯を新にしてより一層斯界の爲め貢獻したい。

(編輯係——林、大西)

直接購讀者募集

淨瑠璃雜誌 第四百十五號

(昭和十七年十二月號)
(毎月一回三十日發行)

●定價本 一部 金五十錢
一ヶ年 金三圓

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
○番書は浪々名物淨瑠璃雜誌社。
○座穴版二九二八番

廣告料

普通	一行	金
一等	一頁	金三十錢
二等	一頁	金二十錢
三等	一頁	金十錢

○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
○製版を要する時は其費を受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行所 樋口虎之助
編輯人 堀口虎之助

印刷所 坂口秀吉
大阪市西區江戶橋下四ノ三〇

印刷所 高尾印刷所
大阪市西區江戶橋下四ノ三〇

發行所 淨瑠璃雜誌社
大阪市西區千本通二ノ三二